

翼賛壯年團

○結成式

一月二十六日午前九時小學校に於て舉行
準備委員長經過報告大要

一月五日結成準備委員會開催し委員長に
村長を推薦す。

一月二十二日午後一時より準備委員及評
議員會開催、團則案制定、結成式舉行方
法、役員選舉を行ふ。

役員氏名左の如し

團長 樋口 勇

副團長 竹内 博、金井好衛

顧問 武田助左衛門、黒坂重市郎

幹事 柳澤尚士

理事 小池寅雄、市村儀市郎

齋藤儀雄、佐藤甚太郎

黒坂 勝

二月六日午後七時開會、翼賛壯年團の性
格運動方法等協議す。

○執行部員會

二月八日午後七時半開會、各部の事業方
針大綱に就審議

(一) 總務部

各部事業方針左の通り
○執行部員會

庶務に關する事項

組織網の整備

大政翼賛會との聯絡

外部との連絡統制

(二) 企劃部

郷土再編成對策

各部門の企劃

拓土送出計劃

負債整理の促進並に國民貯蓄運動

各種資料の蒐集

食糧增産確保

農林生產の維持増進

生産資材配給對策

農業經營の改善

土地計劃の樹立

勤勞計劃

副業對策

勤勞計劃

○評議員會

二月十九日午後七時半より開會
左記協議す

1、昭和十五、六年度豫算の件

2、事業方針の件

3、公報發刊の件

○郡壯年團結成準備委員會

二月二十五日午後一時より郡聯合事務所
に開會、樋口團長出席、左記協議す

1、團則の制定

2、役員の選任

3、結成式舉行の件

○執行部員會

三月六日午後七時半開會、公報發刊其の
他種々協議す

○執行部員會

三月八日午前村常會出席後申合せ事項質
踰に關する打合せ會開催

1、食糧增產に關する件

2、公報編輯の件

農會欄

○食糧增產推進講習會開催

三月十五日より十七日迄西塩田村主催に
て食糧增產推進講習會を東前山區前山寺
に開催す

講師 郡農會 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

員會を開き、十六年度豫算、幹部講習、
陸軍記念日行事等に付き協議す、
○三月十日 午前九時總會 午後一時よ
り記念式、慰靈祭、追悼法要、終つて簡
單な宴會をなす。

農會欄

○食糧增產推進講習會開催

三月十五日より十七日迄西塩田村主催に
て食糧增產推進講習會を東前山區前山寺
に開催す

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

○麥春の管理

講師 農產課 榎田技師

受講生 前山寺住職 中島氏

受講生 六十七名

昭和二十年十二月五日發行

部落便り

十人

○女子青年會總會 一月二日總會を開き
本年度役員左の通り

分團長 佐藤 安子
副分團長 佐藤 みよ

○區總會 一月十五日、午前は年度内の種々事項協議し、午後は正副區長辭任に伴ひ選舉を行ふ、結果左の通り

代理 佐藤 清巳
支部長 篠藤 あとめ
副支部長 廣瀬 ます

○婦人會總會 一月十九日支部役員改選を行ふ、結果左の通り

佐藤 清巳
勝

○部落常會 一月二十七日聞き、大詔奉戴日には午前六時皇子社前に參集祈願祭を行ふ事、又從來雪掃きは男女青年會にて出勤せし處本年からは區全般にて除雪をなす事など種々申合せ事項をなしだり

尚部落會正副會長は左の通り

○青年團員中村賴次君は滿洲開拓小縣鄉建設の爲め渡渉と決定、近く御牧ヶ原修練所へ向はる

東前山

○警防團新年會 一月五日午前八時より事務所にて事務報告あり、終つて役員選舉す、分團長小松清吾、副宮澤長亮兩氏當選せり

○區總會 一月十三日午前八時より總會役員選舉、養蠶組合、負債整理組合會開く、役員氏名左の如し

區長 小松 勝男 副瀧澤 謂

○御寄附 一金參拾圓 大庭 宇次郎殿
一金拾圓 鶴原 今治殿
一金五圓 小坂井 重作殿
一金五圓 大庭 宇次郎殿

右區へ御寄附下さる御禮申し上げます

○一月十五日 事務所にて青年團、女子青年團合同にて輪讀會を開く
○一月十六日 午後七時より事務所にて青年團、女子青年團、婦人會合同にて役員會開催本年の敬老會に關する件協議し本年は中止と決定す

○區役員會 一月二十一日午後七時より開會、國旗掲揚塔建設に關する件、部落會組織の件其の他協議

部落會役員左の如し

第一部落會 正竹内 正尾 副竹内仙太郎

第二部落會 正池田 繁雄 副小宮山宗壽

第三部落會 正小松 寿男 副大庭 直人

右の諸氏當選す

○婦人常會 一月二十二日午後七時より開催左の諸氏當選す

第一部落會部長 正鷲原まさ子 副竹内のぶ子

第二部落會部長 正黒坂まつなみ 副大澤いさご

第三部落會部長 正池田 京 副小松たきよ

○祝儀 一月十五日竹内實君平賀村より良妻を迎へる、一月二十五日小坂井重作氏兩養子迎へる兩家の御多幸を御祈り致します

西前山

○壯年團支部通常總會 二月五日開催、昭和十五、十六年度經過報告、決算報告

本年度豫算案、支部則一部改正の件、事業施行細則制定の件等審議決定せり

理事缺員に付宮澤泰昌君新任せり、終て經營地に於ける團員出勤は義務出勤とす

○壯年改選 正副區長辭任に伴ひ左の通り決定す

區長 宮澤喜十郎 代理 宮澤 勝平
手 塚

○支部青年會並に女子青年會は、一月二日大字公會堂に於て各々春期總會を開催計畫につき協議をなしたり

○壯年團總會 一月五日午後六時大字事務所に於て通常總會開催、昭和十六年度事務報告並に決算認定をなしたり

○支部青年會 支部役員は一月二日澤山鑛泉に集合、會計検査並に新年度事業計畫につき協議をなしたり

○壯年團役員會 支部役員は一月二日澤山鑛泉に集合、會計検査並に新年度事業計畫につき協議をなしたり

○輪讀會 一月十四日男女青年會合同にて輪讀會開催、參會者五十餘名の盛會なりき

壯年團役員會 一月十八日並に二十一日

日の兩日大字公會堂に於て役員會開催、手塚區規約改正の原案作成をなしたり

○講習、講話會 支部翼賛婦人會は一月十九日午前九時より、ゴム底修羅講習會開催す、同日午後田中校長先生の修養講

話を聽講し、夕刻感激裡に散會せり

○慰問狀發送 支部青年會は一月三十一日戰線に奮闘する將兵を偲び、支部出身兵士に慰問狀を發送せり

○代用食講習會 支部女子青年會は、生活改善は台所よりの見地より二月一日小山ちかよ先生にお願し、代用食並に榮養

食講習會を國民學校に開催せり

○二月一日大字手塚區にては正副區長、協議員、土木委員にて山林視察會を施行せり

○二月二日大字區長は、部落會長會を開催し、左記の件に付協議せり

一、區並に部落會相互間の聯絡に付いて

一、部落會豫算に付いて

一、區並に部落會相互間の聯絡に付いて

一、部落會豫算に付いて

一、區並に部落會相互間の聯絡に付いて

一、部落會豫算に付いて

一、區並に部落會相互間の聯絡に付いて

○區總會 一月十五日午前九時より開會諸事項報告後、役員選舉を行ふ、新役員

西塩田村公報

號五第

長野縣小縣郡西塩田村四九六
編輯人金井好
長野縣小縣郡西塩田村大字手塚一九一
發行人樋口勇
長野縣上田市新參町五五二三
印刷所中澤活版所

發行所 西塩田村役場

御寄附

新町 小山 新殿

新殿

役場欄

兵事

○簡閱點呼

本年度簡閱點呼は國民兵全員に就き執行される。其の期日場所は左の通りです。

海軍

六月十二日

上田市公會堂

陸軍

六月二十日

西塩田國民學校

土木

雜便り

投票數六四一
棄權率一割九厘

衛生

一金貳百圓也 銃後奉公會へ
一金壹百圓也 渡邊玄げみ殿
一金壹百圓也 宮澤基厚殿

一貯蓄債券三枚 銃後奉公會へ
額面貳拾壹圓五拾錢也

一金圓也 銃後奉公會へ
一金圓也 倉澤喜市郎殿

一金圓也 公報費 倉澤正喜殿

一金圓也 市村袈裟市郎殿

一金圓也 小山左京殿

一金圓也 富澤理己殿

一金圓也 竹下延人殿

一金圓也 池内妙子殿

一金圓也 市村覺一殿

右各位に對し紙上を以つて御禮申上げま

す。

右により豫習教育(陸軍)は點呼前概ね二三日に亘り執行する豫定なり、他出者にて寄留地受檢以外は必ず教育を受ける事、萬一歸村不能者は其の地で豫習教育を受ける様心得られ度し

○奉公袋内容品に就て
本年から奉公袋入組品左記の通り變更せられたるにより在郷軍人は整備し置かれ度し

一、軍隊手帳若くは補充兵證書

二、勳章、記章
三、適任證書軍隊に於ける特業教育に關する證書

四、召集令狀若くは點呼令狀

五、貯金通帳

六、梶包用風呂敷又は油紙

○衆議院議員總選舉 四月三十日執行せられ、本村の投票は左の通り

有權者數 七五二名

選舉

六月の公租公課

國稅	家屋稅	第一期
村稅	全附加稅	前期
稅全附加稅	前	期

納期日

六月三十日限り

★産業組合欄★

○金澤直人主事退職 本村産業組合職員として満二十一ヶ年勤務の金澤直人氏は今回上小販聯中塩田機業部主事として榮轉に決定四月三十日附を以つて退職せり

村會議員選舉

本村村會議員は五月二十一日施行の處
その結果左の通り

○審議會 三月三十日夜役場に於て開會左記審議す。

軍人分會欄

一、役員任期満了改選の件（新役員）

鉄劍術は第六位にて惜しくも優勝を逃す
軍刀術は中澤君善戦して個人優勝せり
○常任參事會 四月十八日小縣郡聯合事務所に開會小池副長小池常任參事出席
○幹部教育 四月十一、十二日兩日長村に於て開會の郡聯合會主催分會幹部教育會に本分會より左記三君出席す

域に於ける繊維資源の開發は容易ならざる現状にあるを以て、政府は裏に衣料品の點數切符制を實施し消費規正の徹底を図りつゝあるが、更に進んで國內繊維資源の開發活用に邁進し繊維自給化の方途を確立することとなつた。

製絲原料と共に大東亞共榮圈内衣料問題
解決の一環として採り上げられ、其の生
産數量も從來の數倍に及ぶ膨大なる數量
が要求せられ、國策として處理すべく生
產割當制となり本村へは左記の通りの生
産數量が割當られた。

○未入營兵の宿泊訓練 聯合分會主催標記訓練は五月十日より十三日迄三泊四日間に亘り長村菅平に於て開催本村より左記六君出席教育を受けたり

第一補充兵步兵
第二國民兵

全全全全
市村西澤
鷺原池田
重藏勝
政幸由平

○團體長講習會 五月十五、十六日兩日間第二國民兵教育其他に關する分會長講

○新舊役員懇談會 五月九日夜別所温泉
和泉屋に於て役員懇談會を開催す、此の
機會に退職せられた村田副長大庭參事に
より樋口副長受講す

桑皮生産增强に就て

大東亞戰爭の進展に伴ひ、我國は東亞共榮圈内の衣料生活一切を引受て起たねばならぬ重大使命を帶て來たが東亞諸地

國民學校欄

○國民學校本年度部落擔任職員表
手塚 土屋、渡邊、小林政、新井先生
山田 東川、山極先生
野倉 池田、小林信、今井先生
東前山 玉井、宮原、小出先生
西前山 館林、工藤、小山先生
新町 佐藤、山田先生
十人 中村、若林先生

○上縣聯合武術競技會 四月二十二日上
田護國神社に開催せられた標記競技會に
本分會より左記選手を派遣結果左の通り

一、銃劍術の部

一、軍刀術の部

一、射擊の部

市村 智、木下一男、安藤榮廣

中澤袈裟利、大庭省吾

村田久吾、荒井壽人、箱田清衛

吉竹齋瀧福山樋市樋増宮吉竹
田下澤田口澤澤田內市
池藤極村口照一賢秀延兵信左
二一衛庚司勇三郎寬實誠勇壽部夫博門

有權者總數	七三四
投票總數	六二七
棄權數	一〇七
(割四分五厘)	

○審議會　四月十六日夜役場に於て開會
左記に就き協議す

全監事（議事）
安藤美久 東川多壽男
金井好衛

一、昭和十六年度決算認定の件
一、昭和十七年度變更豫算の件
一、上縣武術競技會出場選手の件
一、第一國民兵教育に關する件
一、贊賛選舉貫徹運動の件

○第二國民兵教育本年度簡閱點呼は國民兵全員に就き執行される事になりたる爲在村の第二國民兵二十五名に對し四月十五六の兩日に亘り、分會幹部總出動し豫習を實施せり

一、銃剣術の部

軍刀術の部
中澤袈裟利、大庭省吾
射撃の部
市村 智、木下一男、安藤榮廣

部落通信

東前山

○三月三日 銚後奉公會、青年團、分會にて出征兵士の皆様へ慰問袋を發送す。

○三月十二日 第二回西塩田村食糧増産講習會を前山寺に於て開催當區より抬名受講せり。

○三月二十日 分會役員四名は誠訪神社へ銀輪を飛ばし上社、下社へ武運長久祈願をなす此の日晴天に恵まれ和田峠を越え廿二日無事歸宅す。

○三月廿三日 四月四日の兩日壯年團員にて大麻の皮むき終りソバの試食會を行なす。

○御祝儀 三月廿八日竹内本久君長野市より良妻を迎へる、中島ふみ子様は東京市へ嫁ぐお二人の幸福をお祈り致します。

西前山

○三月二十二日 部落會長會議

午後八時より當區事務所に於て部落會長會議有り左記に付き協議す

西前山食糧增產推進一夜講習會開催に付き日程方法等に付き協議す

日時 三月二十九日三十日

場所 中禪寺

○山林下草

西前山區では三月二十三三四日兩日山林經營法に基すき山林の下草拂を行ふ。

○講習會 一日三十名出勤豫定通り目的を完遂せり

○講習會 前山區主催にて中禪寺に於て食糧增產

出席者は部落會役員並に青壯年團一同十五名受講せり。

講師は郡農會吉池氏、前山寺中島氏、外役場係員をお願ひに戦時下農村の重大使命につき熱心にお話下され受講生一同感激又力を新に持ち益々食糧増產に挺身する事を誓ひ無事講習會を終了す。

○女子青年會 西前山女子青年會では四月五日臨時總會を開催す、前會長滿期につき改選を行ふ其の結果左の諸氏當選就任す。

會長	宮澤敏子
副會長	宮澤久世

○婦人會 西前山婦人會では四月十日午後八時より當區事務所に於て婦人常會を開催す。

黒坂勝、田中校長兩氏をお願致し銚後婦人の勤めに付きお話有り會員一同は職務のいかに重大で有つたかを認識し益々銚後への護りを固める事を誓ひ午後十時無事常會を終了す。

○總會 西前山では四月十四日午後八時より事務所に於て總會を開き左記に付き協議す

一、部落會場建設に關する件

右に付き協議し満場一致賛成をなし區より補助金を出す事に決定し十時總會を閉會す。

○西前山銚後奉公會 四月十六日午後八時より事務所に於て西前山區主催にて中禪寺に於て食糧增產協議す

出席者は部落會役員並に青壯年團一同十五名受講せり

講師は郡農會吉池氏、前山寺中島氏、外役場係員をお願ひに戦時下農村の重大使命につき熱心にお話下され受講生一同感激又力を新に持ち益々食糧増產に挺身する事を誓ひ無事講習會を終了す。

○女子青年會 西前山女子青年會では四月五日臨時總會を開催す、前會長滿期につき改選を行ふ其の結果左の諸氏當選就任す。

○婦人會 西前山婦人會では四月十日午後八時より當區事務所に於て婦人常會を開催す。

黒坂勝、田中校長兩氏をお願致し銚後婦人の勤めに付きお話有り會員一同は職務のいかに重大で有つたかを認識し益々銚後への護りを固める事を誓ひ午後十時無事常會を終了す。

○總會 西前山では四月十四日午後八時より事務所に於て總會を開き左記に付き協議す

一、部落會場建設に關する件

右に付き協議し満場一致賛成をなし區より補助金を出す事に決定し十時總會を閉會す。

○西前山銚後奉公會 四月十六日午後八時より事務所に於て西前山區主催にて中禪寺に於て食糧增產協議す

出席者は部落會役員並に青壯年團一同十五名受講せり

講師は郡農會吉池氏、前山寺中島氏、外役場係員をお願ひに戦時下農村の重大使命につき熱心にお話下され受講生一同感激又力を新に持ち益々食糧増產に挺身する事を誓ひ無事講習會を終了す。

○女子青年會 西前山女子青年會では四月五日臨時總會を開催す、前會長滿期につき改選を行ふ其の結果左の諸氏當選就任す。

○婦人會 西前山婦人會では四月十日午後八時より當區事務所に於て婦人常會を開催す。

黒坂勝、田中校長兩氏をお願致し銚後婦人の勤めに付きお話有り會員一同は職務のいかに重大で有つたかを認識し益々銚後への護りを固める事を誓ひ午後十時無事常會を終了す。

○會長區長樋口秀實 講師は前山寺住職中島榮知氏、郡農會吉池幸二氏、武田村長等で、受講者の收穫も亦大きかつた事と思はれる。

○副會長區長代理市村儀市郎 講師は前山寺住職中島榮知氏、郡農會吉池幸二氏、武田村長等で、受講者の收穫も亦大きかつた事と思はれる。

○監種部主任中澤喜和治 講師は前山寺住職中島榮知氏、郡農會吉池幸二氏、武田村長等で、受講者の收穫も亦大きかつた事と思はれる。

○購買部全曲尾森之助 講師は前山寺住職中島榮知氏、郡農會吉池幸二氏、武田村長等で、受講者の收穫も亦大きかつた事と思はれる。

○繭處理部全勅使川原良徳 講師は前山寺住職中島榮知氏、郡農會吉池幸二氏、武田村長等で、受講者の收穫も亦大きかつた事と思はれる。

○會計部全小池勉 講師は前山寺住職中島榮知氏、郡農會吉池幸二氏、武田村長等で、受講者の收穫も亦大きかつた事と思はれる。

○三月廿二日 祈願祭執行 當區に於ては、區の出征兵士の家族を招致し、王子神社に於て、武運長久戰捷祈願を行ふ、終つて公會場に於て小宴をなす。

○三月三十日 區常會開催す

○三月三十一日 區常會開催す

○四月一日 一夜講習會開催、前日の夜は齋藤、小林兩技術員の増產に關する講演並に座談會有り、三日は午前五時起床各部落會毎に或は集會場の改築に、或は増產に極めて嚴肅の裡に作業を終了せり

○四月二十六日 當區に於ては一齊に稻種子の塩水撰を行ふ。

推進講習會を開催す。

一、出征兵士に慰問袋發送の件
一、出征兵士家族へ勤勞奉仕の件

に參拜し、三角林一町歩へ落葉松、杉、扁柏を植栽した。

○樋ノロ部落會では二十日より二十四日迄、試驗的に共同炊事を實施した、期間中毎日午前五時より朝食の合圖迄一時間共同作業を行ひ、各戸の仕事を間に合はせる様にしたが結果は良かつた、農繁期には本格的に實施し食糧増產に鋭意邁進しようとの熱意に燃えて居る。

○四月二十二日 恒例による堰拂農道修理が施行された。

○四月二十七日より一泊二日間の食糧増產推進講習會は、無量寺で開催され七十八名の受講者中、古稀の齡に近き老人が熱心に受講されたのは感激した。

○四月二十九日 樋ノロ部落會は午前大麻播種作業、午後新堰普請を施行し四時三日竣工式が舉行された。

○四月二十二日 恒例による堰拂農道修理が施行された。

○四月二十九日 樋ノロ部落會は午前大麻播種作業、午後新堰普請を施行し四時三日竣工式が舉行された。

村常會より

○役員異動 翼賛會本村支部新役員は左の通り依頼されました。

支部長 武田 助左衛門

常務委員 黒坂 勝

全 齊藤儀雄

全 宮澤兵部

全 吉田信夫

全 楠田信義

全 重市郎

全 田中寛

全 桶口秀實

全 田極

全 黒坂重市郎

全 田中信

全 桶口吉田

全 田澤吉田

野山倉	野山倉	野山倉
倉静雄	倉治	倉静雄
四男	四男	四男
長男	長男	長男
二女	二女	二女
池田國雄	池田國雄	池田國雄
勤	勤	勤

山田

○三月廿四日より大麻の剥皮始まる、廿七日全部終了。

○三月廿五日 第二回の戰勝祝賀の酒特別配給有りたり。

○青年團山田分團長辭職、竹下今朝次郎君新に當選す。

○四月三日 養蠶組合飼育者慰安會は別所柏屋別莊にて一日清遊、來る可き蠶戰に對處す可く婦人連の覺悟を固くす。

○四月七日 食糧增產に全部落挺身する爲午前は隣組にて男女二人宛出て共同作業各隣組思ひくの仕事に一戸約一時間

作業午後は郡農會の吉池幸二氏の食糧増

産に對する農民の覺悟に就いて講演あり部落民男女總員聽き大なる感銘を與へた

り。夜は村農會より齊藤、小林兩技手の

村の食糧增產に對する懇談會ありたり。

○四月十日 壯年團例會、選舉に對して縣の指示により翼選を誓ひたり。

○十八日 トランポールの檢診、本年は昨年より三名の減、尙當日全部落民の腹の寄生蟲退治の海人草を呑む。

○二十日 緑肥用大豆九石來る、肥料不足も是に依り幾分かは助かる。

當部落の最高齡者（芳坂おきの）さんは八十九才にて死去さる。

○東川源一郎君は神科より良妻を迎へら

○竹下ちかいさんは神川へ嫁せらる、共に多幸を祈る。

○四月廿六日 北組麻播廿七日上組麻播本年山田へ割當一反歩、各部落會二百坪當りである。

野倉

○三月二十三日 女子青年會員は事務所内の佛壇の清掃を行ふ。

○三月二十五日 警防團第三分團役員は手塚より

手塚へ

手塚より

増産！ 増産！

西塩田村公報

第 七 號

噫！

大東亞戰爭に散る華 英魂永へに安かれ！

左記四君は勇躍大東亞戰爭に從軍せられ陸に海に空に勇奮敢鬪を續けらるゝ中、無念や身に敵彈を蒙られ或は不幸病魔に冒さるゝ等、天晴れ大東亞建設の尊き礎石として護國の鬼と化せられたり。

我等村民一同は兄等の英靈に對し謹んで滿腔の感謝を捧げ深甚なる弔意を表する次第なり。

故機關兵曹 坂口 祖君

昭和十七年六月五日東太平洋ニ於テ戰死

故陸軍兵長 宮澤 政君

昭和十七年十一月六日宇都宮陸軍病院ニ於テ病死

故陸軍准尉 安藤辰雄君

昭和十七年十二月十日昭南島カムリン島附近船中ニ於テ戰死

故陸軍一等兵 東川深一郎君

昭和十八年三月八日北支ニ於テ戰死

兵事欄

▲簡閱點呼 本年度簡閱點呼は不日（未定）執行されるが本年度は第二國民兵全部に就いて執行されるに付き該當者は夫々準備されたい。尙時局下生産增强に心をいたし他出者は出來得る限り寄留地又は職域にあるまゝ受閱されたい。それに『寄留地參會届』を三月中に其れ以外は其の地の聯隊區司令官に『參會願』を提出し許可を受ける事になつてゐるに付留意願ひたい。

▲徵兵検査 本年度徵兵検査は左記により執行されるに付壯丁は今より健康状態に注意し揃つて健民強兵の運動に意を致されたし。

一、壯丁學力調査 五月十八日（豫定）
二、レントゲン検査 五月十九日
三、徵兵身體検査 五月二十日

銅壺供出日變更

裏に御通知申上し銅壺供出日は止むを得ざる事情により左記の如く變更致しました。洩れなく供出して下さい。

期日

四月八日

場所

部落集會所

今月ハ二十三日カラ一十九日マデ軍人援

長野縣小縣郡西塩田村大字十人三四編輯人佐藤甚太郎
長野縣小縣郡西塩田村大字手塚一九一發行人樋口勇
長野縣上田市新參町五五二三

印刷所 中澤活版所

四月の常會

一、防空ニ關スル事項

一年前ノ四月十八日ハ敵機ノ空襲ガアツタ日デス。今モ敵ハシキリニ我本土ヲ狙ツテキマス。今後ハ小型ノ外ニ大型ノ焼夷彈ガ使ハレルカ知レマゼン、又爆彈ニ對スル待避モ必要デアリマス。コノ際、警察署ヤ警防團ノ指導ヲ受ケテ何一ツ缺陥ガ無イヤウ防空陣ヲ固メマセウ。

ロ、ソノ他防空用具ハ必ズ全部取揃ヘイ、防火用水ハ常ニ所定ノ水量以上用意シテ置クコト。

テ何時デモ完全ニ使ヘルヤウ準備シテ充分ニ訓練ヲ積ムコト。

二、蓖麻ニ關スル事項

戰フ荒鷲ニ無クテハナラナイ潤滑油ニ事カカセヌヤウ大イニひまヲ蒔キマセウ。

今年ノ收穫目標ハ全國デハ〇〇廷デ昨年ノ五倍デ、本縣デハ一二二一、一廷ヲ目標トシテキマス。昨年ノ經驗ヲ生カシ栽培本數ヲ昨年ノ五倍ニシ、且丁寧ニ育テ、収量ヲ増スヤウニ皆デ努メマセウ。

(1)馬ヲ愛護シマセウ。

四月七日ハ愛馬ノ日デス。皆デ協力シテ馬ヲ愛護致シマセウ。當日『愛馬ノ夕』ノ放送其ノ他講演會ガ催サレマス

三、軍人援護ニ關スル事項

大東亞戰爭遂行上無クテハナラナイ活

兵器デアリマストコロノ馬ヲ必要ナ頭數ダケハドウシテモ生産シナクテハナリマゼン。今月ハ馬ノ種付季節デス、種付可能牝馬ハ必ズ種付シテ仔馬ガ生レル様ニシテ下サイ。

(1)部落會隣組デハ軍人ノ遺族、家族ヤ、傷痍軍人ナドノ援護ニ手落チハナイカト、ヨク調べテ市町村ヤ銃後奉公會方面委員ト連絡シテ手ヲツクスコト。

(2)隣組デハソノ出征軍人ヘ自筆ノ『隣組便リ』ヲ出スコト。

四、馬ノ愛護増産ニ關スル事項

(3)靖國神社ノ臨時祭典當日ニハ、部落會町内會、隣組ノ代表者ハ護國神社、戰歿軍人ノ墓碑等ニ參拜シ一般モツトメテ參拜スルコト。

國防茲ニ輸送上重大ナル使命ヲ擔ツテ黙々ト挺身スル馬匹ノ愛護、改良、增産ニ關シテハ、戰時下特ニ其ノ重要性ガ愈々加重セラレテ參リマシタ。

此際一層馬事思想普及、増産ノ爲左記事項ヲ實行シマセウ。

(1)馬ヲ愛護シマセウ。

四月七日ハ愛馬ノ日デス。皆デ協力シテ馬ヲ愛護致シマセウ。當日『愛馬ノ夕』ノ放送其ノ他講演會ガ催サレマス

(2)馬ノ増産ニ努メマセウ。

農會欄

○野鼠驅除 増産の敵野鼠の撲滅を期し三月十八日全村民一齊に驅除用團子撒を實施す。

○麥踏 麥の増産必須事項の一たる麥踏は三月十五日より十七日迄に全村民國民學校を總動員して實施せり。

○廐堆肥增産競技會 金肥不足の折柄食糧増産には廐堆肥の増産こそ緊要であります。本會は壯年團と共に左記により増產競技會を實施します。

○參加者 全部落會及農家

○積込日 三月廿一日—卅一日

○審査日 四月一日

○褒賞 團體賞、部落會一二三等個人賞 農家 一二三等

○食糧增産講習會 農家の使命は食糧增産に有り。この決戦の決意を徹底しその技術を層一層向上させるために各部落毎に部落全員を受講させその目的を貫徹させる食糧增産講習會を三月二十四日手塚區を皮切に開催す

國民學校欄

○學制頒布七十年の御沙汰書一月二十九日下附せらる

○紀元二千六百年祝典記念章 田中校長土屋教頭、佐藤訓導受領す

○耐寒鍛錬 二月四日全校二週間の鍛鍊

終了全校雪中行軍をなす
○體操講習會 二月七、八兩日別所學校に於て開催全職員出席す

○二月十一日 紀元節拜賀式、青年學校武道大會舉行

○二月二十日中等學校入學志望者父兄會音樂會 三月三日桃の節句に開催す

○劍道競技會 三月三日十日間の武道稽古終了高等科男子劍道競技會開催す

○宮崎前校長肖像寫眞除幕式三月五日舉行

四月の納稅

縣稅地租附加稅

前期

村稅地租附加稅

前期

納期日 四月二十五日限り

一等 紺屋村貯蓄組合
二等 東前山村貯蓄組合
三等 金井貯蓄組合
二等 宮原貯蓄組合
三等 下久保貯蓄組合
三等 橋ノ口貯蓄組合
三等 上手貯蓄組合
努力賞 堀口婦人部貯蓄組合

產業組合欄

二月十四日午後一時より國民學校に二十回通常總會を開き各種議案七件を決議せり、尙當日國民貯蓄組合の表彰式をす

被表彰貯蓄組合左の通り

一等 紺屋村貯蓄組合
二等 東前山村貯蓄組合
三等 金井貯蓄組合
二等 宮原貯蓄組合
三等 下久保貯蓄組合
三等 橋ノ口貯蓄組合
三等 上手貯蓄組合
努力賞 堀口婦人部貯蓄組合

統合に對處して率先畜產事業の一元的統合を満場一致を以つて決議せり
尙當日郡畜產組合技手より飼育管理上に付いて講演あり、村長外多數の來賓を迎へて盛會を極めたり。

婦人會欄

○三月六日午前十時より國民學校に於て第二回總會並令旨捧讀式舉行す

午後は各班持寄りの餘興あり、尙當日は廢品利用共進會も開催せり

○三月十六日午前九時より上田市公會堂に軍事援護婦人相談委員講習會並に婦人幹部鍛成講習會があり、左記委員出席せり。

○三月十六日午前九時より上田市公會堂に軍事援護婦人相談委員講習會並に婦人幹部鍛成講習會があり、左記委員出席せり。小池育、保科喜美、佐藤順、鷲原かめの、兒玉多賀子、吉野和、山極安子、竹内通世、荒井しめの

青少年團

○輪讀會

雜誌二月號に依る輪讀會二月二十三日より月末に亘り各分團に於て夫々開催せり

○除幕式

三月五日午後一時より前國民學校長宮崎司先生肖像除幕式舉行、村内名譽職各位の御臨席を得て全員參列、午後二時盛會裡に終了せり。當日長野海軍人事部長古田中海軍大正の講演會を計畫せるも講師急病の爲中止に至りしは遺憾なりき。

農會欄

○野鼠驅除 増産の敵野鼠の撲滅を期し三月十八日全村民一齊に驅除用團子撒を實施す。

○麥踏 麥の増産必須事項の一たる麥踏は三月十五日より十七日迄に全村民國民學校を總動員して實施せり。

○廐堆肥增産競技會 金肥不足の折柄食糧増産には廐堆肥の増産こそ緊要であります。本會は壯年團と共に左記により増產競技會を實施します。

○參加者 全部落會及農家

○積込日 三月廿一日—卅一日

○褒賞 團體賞、部落會一二三等個人賞 農家 一二三等

○食糧增産講習會 農家の使命は食糧增産に有り。この決戦の決意を徹底しその技術を層一層向上させるために各部落毎に部落全員を受講させその目的を貫徹させる食糧增産講習會を三月二十四日手塚區を皮切に開催す

○職員研究發表會あり

佐藤先生「石器土器について」三日間士屋先生「神社、寺院建築につき」三

○學制頒布七十年の御沙汰書一月二十九日下附せらる

○紀元二千六百年祝典記念章 田中校長土屋教頭、佐藤訓導受領す

○耐寒鍛錬 二月四日全校二週間の鍛鍊

○職員研究發表會あり

佐藤先生「石器土器について」三日間士屋先生「神社、寺院建築につき」三

○學制頒布七十年の御沙汰書一月二十九日下附せらる

○職員異動 三月十日玉井先生の後任として金澤義夫先生着任す

○新入學生徒父兄會三月十三日開催

○職員研究發表會あり

佐藤先生「石器土器について」三日間士屋先生「神社、寺院建築につき」三

○學制頒布七十年の御沙汰書一月二十九日下附せらる

○紀元二千六百年祝典記念章 田中校長土屋教頭、佐藤訓導受領す

○耐寒鍛錬 二月四日全校二週間の鍛鍊

○體操講習會 二月七、八兩日別所學校に於て開催全職員出席す

○二月十一日 紀元節拜賀式、青年學校武道大會舉行

○二月二十日中等學校入學志望者父兄會音樂會 三月三日桃の節句に開催す

○劍道競技會 三月三日十日間の武道稽古終了高等科男子劍道競技會開催す

○宮崎前校長肖像寫眞除幕式三月五日舉行

○二月十一日 紀元節拜賀式、青年學校武道大會舉

手塚

○敬老會 二月十一日紀元節の佳き日婦人會男女青年團の三團體主催にて大字事務所にて開催色々御馳走し午後は餘興にて出征遣家族御年寄を慰め午後盛會裡に散會せり

○輪讀會 二月二十七日男女青年團合同にて午後七時より輪讀會開催す

○お目出度 黃道吉日の三月十六日林重義氏は良縁ありて長瀬村より良妻を迎へられたり御多幸を祈ります

○女青役員 分團長小林靜さん任期満了にて退任し新任左記の通り決定す

分團長 中澤みちの 副分團長 横山登貴

火の用心

○一月四日警防團第一分團は大字手塚區より支給せられる警防團員手當金四拾五圓を大字に返還し時局臨時資金とせり

○一月十二日壯年團支部及警防團一分團と協力し大字に勤勞奉仕をなし薪取を兼ね山林の手入をなす

○一月三十一日男女青年四十六名上山田陸軍療養所に慰問餘興二十組をなせり

○二月十一日手塚區は大正天皇御即位記念林を軍需材に供出せり

○大字手塚區は舌喰地域内に開田一町歩を計畫し近く食糧增産講習會を行ひ開田工事を行ふ豫定なり

○玄米食炊き方及軍人援護の件につき二月二日婦人會役員會を開催
○常會 每月一日區長及部落會長を中心
に決戦下の諸事項につき協議す

野 倉

○出征家族慰安並敬老會
二月十四日午前十時、男女青年團並婦人會主催にて舉行澣刹優雅なる餘興を演じ
一同日沒を忘れて一日の清遊をなしたり

○薪供出
二月二十八日比較的の薪に惠れた當區に於ては今度七五〇把供出に決し差當り四〇〇把を別所驛迄供出せり

○三月大詔奉戴日

八日午前七時區民一同塩田水上神社に參

○本年度當區の役員左の通り就任せらる 區長	警防團分團長	竹下定吉	竹下照司
壯年團支部長	竹下友治	竹下英雄	
婦人會班長	竹内通世	竹下りん	
青年團分團長	金井 正		
女子青年團分團長	竹下わか		
上手組部落會長	齋藤達男		
北組部落會長	竹下亥地人		
東組部落會長	竹下英雄		
○大詔奉戴記念日	每月八日朝區民一同		
及國民學校生徒一同山田神社に參集戰勝 祈願をなす	お願ひして國民學校教育につきて講演を 聞く		
○婦人會總會	一月二十三日土屋先生を		

軍事大講演會

期日
四月九日午後一時
場所
國民學校講堂
講師
海軍人事部長

集、國民儀禮の後大東亞戰爭完遂祈願を行ひ各自擧られて止まんの決意を誓ひ

一金貳拾圓也 山田和申報德社代表
金井 つねよ殿

○御目出度
ひ解散せり

池田常正君は良縁ありて屋代町より良妻
を迎へられたり御兩人の御多幸を祈る

軍事大講演會

一、期日 四月九日午後一時

一、場所 國民學校講堂

一、講師 海軍人事部長

古田中大佐

御 寄 附

右厚生協會	一金拾圓也	一金五圓也	一金拾圓也	一金貳拾圓也	右公報發刊費	一金拾圓也	一金五圓也	一金拾圓也	一金貳拾圓也	右壯年團活動資金中	右之通り御寄附被下候段乍略儀以紙上御	右禮申上候	昭和十八年三月
西鹽田村	西鹽田村	西鹽田村	西鹽田村	西鹽田村	大澤	小林	吉澤	山極	曲尾	大澤	吉澤	正殿	竹下幸吉殿
翼贊壯年團	翼贊壯年團	翼贊壯年團	翼贊壯年團	翼贊壯年團	三	繁	吉	極	衛	平殿	和殿	正殿	小林茂雄殿
會長	會長	會長	會長	會長	平殿	松殿	吉和殿	正殿	一殿	正殿	吉和殿	正殿	吉殿

一金拾五圓也	武田洋子殿
一金壹圓也	瀧澤三郎殿
一金壹圓也	吉澤豐殿
一金拾圓也	荒井彥六殿
一金壹圓也	西澤又八郎殿
一金壹圓也	西澤八作殿
一金壹圓也	大口基殿
一金四圓五拾五錢也	鶴原廣平殿
一金四圓五拾五錢也	吉田信夫殿
一金四圓五拾五錢也	竹内甚之助殿
一金壹圓也	市村政人殿
一金壹圓也	横谷助殿
一金壹圓也	小宮山莊殿
一金壹圓也	山極藏殿
一金壹圓也	瀧澤正江殿
一金壹圓也	佐藤知殿

妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫	妻夫
宮春	山德	前小林	烟難	宮下	竹下	久保	橋詰	川谷	宮原	永井	杉内	花岡	山下	小宮林	小山壽
原志	極田	智	中波	澤形	中綱	杜綱	久美	まさ子	まつみ	よ里	内田	木加治	花岡	宮林常春	美常春
つづ	壽鉄	竹	豊	ト秀	英信	義砂	義砂	吉榮	邦吉	三喜子	義國	はま	はま	山壽	山壽
子平	滿三郎	雄	みね	トキ	美已	美巳	美巳	美巳	静子	正清	岩雄	廣島縣	新町	中塩田	中塩田
上野	東京へ	野倉	新町へ	手塚	山口縣	青木	武石	新町	浦里村	泉田	手塚	手塚	手塚	中塩田へ	中塩田へ
伊那	より	より	より	より	より	より	より	より	より	より	より	より	より	より	より

人 口 動 態

◎婚 畜 之 部

山	西	前	山	田	妻夫										
田	坂	口	美	佐	小	綠	川	袈	裟	大	片	山	樺	竹	福
源	川	源	子	子	さ	さ	わい	わい	ます	大	口	ま	すみ	た	根
良	一	堂			新	塙	科	郡	へ	手	塙	手	塙	手	塙
長	三	女			町	新	町	新	手	塙	手	塙	手	塙	手

結婚斡旋委員

東	前	手	全	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
前	山	手	全	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
山	前	塙	全	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
前	山	塙	東	新	十	新	東	新	手	塙	手	塙	手	塙	手
山	前	塙	前	山	町	人	町	人	塙	手	塙	手	塙	手	塙
前	山	塙	前	山	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手

●死 亡 之 部

大	保	竹	竹	町	福	小	福	吉	曾	竹	吉	小	小	中澤	黑坂
澤	科	內	內	田	田	林	田	根	竹	吉	澤	山	山	柳澤	敦子
芳	三	や	と	や	一	ひ	廣	け	内	澤	克	宮	山	澤千代子	とし子
江	郎	い	み	い	誠	ろ	邦	し	内	池	英	利	三千子	詩子	中澤
一	二	二	二	才	五	三	七	七	七	太	次	重	敏	勝洋	多枝
六	六	二	二	才	三	三	三	七	九	治	助	正	進	善	福田
才	才	才	才		才	才	才	才	才	市	雄	人	隼	吉人	齋藤

一、みんな輪になれ月が出来りや

みんな輪になれ

二、みんな輪になれ月が出来りや
みなぎる力だ人の和だ
結ぶ心の輪をつくれ

三、みんな輪になれ月が出来りや
さうだこの意氣この心
固い誓の輪で踊れ
たぎる血潮だ總力だ
心は一つだ築くのだ

四、みんな輪になれ月が出来りや
さうだこの意氣この意志だ
あすの職場に生きるのだ

『後略』

手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手
手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手
手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手
手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙
塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手	塙	手

西塩田村公報

號 八

長野縣小縣郡西塩田村大字十人三四
編輯人佐藤甚太郎
長野縣小縣郡西塩田村大字手塚一九一
發行人樋口勇
長野縣上田市新參町五五二三
印刷所中澤活版所

マセウ。

生産、供出ノ方法其ノ他ニ就テハ、養
蠶業組合、又ハ產業組合ガ指導ニ當ル
コトニナツテキマス。

尙昨年供出サレマシタ桑皮ハ既ニ作業
服、學童服トシテ相當量還元サレテ來
テ居リマス。

五、大詔奉戴日ハ必ズ左記事項ヲ實行シ
マセウ。

五月ノ大詔奉戴日ハ一層詔承必謹ノ精
神ヲ徹底スルト共ニ、縣民總武裝ノ日
トシテ、部落會、町内會、隣組各種團
體等ニ於テハ早朝各人防空服裝ニテ、
大詔奉讀式茲ニ神社參拜ヲナスコト。

堆肥增產競技會

入賞部落會名

入賞個人名

東前山第一	竹内
新町王子	小松
新町中組	齋藤東一郎
西前山惣門	佐藤
西前山中原	竹内一二三
山田上手組	博

入賞個人名

東前山第一	竹内
新町王子	小松
新町中組	齋藤東一郎
西前山惣門	佐藤
西前山中原	竹内一二三
山田上手組	博

農會欄

増産は塩水選の勵行から

本年度食糧増産を期する上には優良種苗の育成を必行せねばなりません。左記により塩水選の勵行を農區、又は部落會により共同施行を願ひます。

一、塩記

塩は配給により之を使用のこと

二、使用分量

種別	比重	使用要領
梗無芒	一、三	水一斗二付
梗有芒	一、〇	變性塩一三〇〇匁
穀	一、八	水一斗二付
		變性塩七〇匁

三、注意

- (1) 塩は配給にて少量なれば之が使用には充分留意せらるゝこと
- (2) 穀はよく唐箕選をして後塩水選を施行すること

播種に就て

本年の不順の氣候は全く未曾有のことありますから播種期を目前に控へて腐病の虞れがありますので播種量等に付て耕種改善規準の薄播の勵行が不安がられます。左記方法の實施により腐敗病防除の萬全を期し薄播の實行を願ひます。

稻苗腐敗病防除方法

一、種子消毒の勵行

硫酸銅二%の溶液(水一斗に硫酸銅二〇匁)に一晝夜浸漬をなし十分に

水洗をなし浸種をなすこと

二、苗代の消毒

發芽後十日目乃至十五日の間に八斗式ボルドー液を坪當五合の割合に撒

布すること

薬品は農會にて配給す

軍人分會欄

軍人分會欄

軍刀術

幹部講習會

四月九、十の兩日に亘り長村國民學校にて教育係講習會開催され本分會より佐々木革一、齋藤益人兩君出席受講す。

四月二十一、二十二兩日團體長講習會上田市營運動場に於て開催され本分會より吉田分會長出席受講す。

○役員會

四月十日午後七時より役場に於て役員會開催十七年度會計監査施行す。

○審議會

四月十二日午後一時より役場に於て審議會開催、昭和十七年度決算認定、分會員健康診斷實施に關する件其他協議す。

○健康診斷

四月十八日午後一時より國民學校に於て分會員健康診斷實施在村會員〇〇〇名出席身長體重胸圍の測定百米疾走、巾跳、懸垂、手榴彈擲、ツベルクリン注射等實施す。

婦人會欄

青少年團

銃劍道一段

山極 武

安藤 美久

春期總會並に講演會

四月九日午後零時半より國民學校に於て本年度春期總會開催入、退團式舉行、田中單位團長より昨年度事業報告、本年度事業計畫に付説明の後武田團長より、現下に處する團員の心得に付有益なる訓示に一同銘銘裡に閉式、續いて長野地方海軍人事部長古田中大佐の熱烈なる講演を聽講、午後四時一同感激裡に開散せり。

後村内有力團體代表者に依り講師を囲み座談會をなす。

四月五日上小地方事務所に於て町村支會長並事務主任者會あり竹下副支部長出

上田護國神社例祭に當り上小聯合分會共同主催の下に第廿八回武術大會開催され本分會より左記選手出場す。

生協會理事湯下先生により被服更生指導會開催會員多數受講せり

御寄附

金壹百圓也

小山 久士殿

大白 昌平殿

豊殿

右大日本婦人會西塩田村支部へ

右役場廳舍改築費中へ 小池

大澤 かつよ殿

右金五百圓也

席せり

四月十七日國民學校に於て日本被服生協會理事湯下先生により被服更生指導會開催會員多數受講せり

御寄附

誤

國民學校欄

○職員の異動 土屋教頭埴科郡中之條國
民學校長に榮轉、渡邊廣造先生浦里校へ
中村光次先生神科教へ、小林政利先生縣
校へ轉任、小出ますじ先生退職
神林教頭 水澤賢先生 宮島琴子先生
柳澤信先生 宮島琴子先生着任す

○四月一日 入學式
○神武天皇祭 御親閱十周年師道昇揚記
念式あり
○大詔奉戴記念日 全校生徒各神社に參
拜戰勝祈願をなす。詔書奉讀式舉行す。
○四月九日 青少年團入退團式終りて古
田中大佐の講演あり
五兩日各神社に參拜をなす

鄉土出身將兵

慰問原稿募集!

今日の戦争は兵器は日進月歩でなくして眞に秒進分歩である。今日の新
兵器は明日の舊式兵器にだする。その意味で我等も我等の慰問方法を進
歩させねばならない。我公報部は在來の慰問號と型を違へた最も斬新な
肩のこらぬ慰問用原稿を募集す。奮つて御投稿を乞ふ。

- 一、種類
 - 二、用紙
 - 三、締切
 - 四、送先
- ハ、寫眞
慰問文は公報原稿用紙 其の他は制限なし
五月二十五日
役場内公報部宛

○本年度學級擔任

初一東 農業	宮島琴子	初五東 小林 信平
初二東 初一西	柳澤信	初五西 佐藤 知
初二東 初二西	山極はる子	初六東 山田 培夫
初三東 初三四西	宮原秀雄	初六西 水澤 賢
初四東 初四西	工藤 章	高一東 東川多壽男
初三西 初三西	新井靜江	高一西 神林 祯壽
初四東 初四西	池田基寛	高二東 館林 良隆
若林はる江	宮島君雄	高二西 今井 吉元
金澤義夫	裁縫	全

○國民學校へ左の通り御寄附ありたり

平凡社發行百科辭典全部	大東亞地圖	大口史司殿
佐藤 知	佐藤 知	佐藤 知
培夫	培夫	培夫
山下長敏殿	山下長敏殿	山下長敏殿
丸子農商學校	丸子農商學校	丸子農商學校
上田高等女學校	上田高等女學校	上田高等女學校
丸子實科女學校	丸子實科女學校	丸子實科女學校
全	全	全

○本年度中等學校入學者

竹下 仁	山極 隆久	山極 定茂
上田中學校	上田中學校	上田中學校
全	全	全
△銅壺供出 四月八日大詔奉戴日をトし	△銅壺供出 四月八日大詔奉戴日をトし	△銅壺供出 四月八日大詔奉戴日をトし

○國民學校へ左の通り御寄附ありたり

△國民學校へ左の通り御寄附ありたり

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會次第

△總會次第

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

△總會並講演會

部 落 通 信

十 人

○御目出度 三月二十五日齋藤みね様上本郷へ嫁がる。四月三日小林夏男氏依田村より良妻を迎へらる。四月二十五日佐藤丑太氏上田市より良妻を迎へらる。謹んで御多幸を御祈り申上ます。

○四月二十日夜常會開かる。

東 前 山

○増産講習會 四月一日午後一時事務所で地方事務所長永田康一氏の現下食糧事情に就て有益なるお話を聞く。

○青少年團 四月十日夜例會を開催 本年度豫算編成と意見の發表をなす。

○女子青年會 三月二十一日夜 地久節の素人演藝會出演者の慰勞會を催したり

四月十日夜事務所で満期退會者の送別會を開き多年の勞苦を謝し、盛大な、はなむけの藝を出し談笑裡に閉會。終て文庫係の改選、春の遠足は長野市内見物と決定散會せり。

○婦人會 四月八日夜聯合常會を開き受持巡查岡田氏の話を承る筈の處、生憎の悪天候でお話を承る事が出来なく助役様より有益なお話を承る

○警防團 四月十五日早朝塩野神社にて防空防火の祈願祭を行ひ後、神戸川で女子青少年團と共にポンプ操法、放水演習をなす。

○輪讀會 四月二日夜男女青少年團では作業場にて輪讀會を催す。

○塩野神社 四月十五日の春祭りを少し、終りて村内行進をなす。

○お芽出度う 澤睦夫君には、良縁ありて北塩尻村へお嫁さんに、お聟さんに行かれましたお二人の御多幸を祈ります。

○工事竣工 旱魃時、灌漑水には心配なき様にと昨年初秋着工した『ゲツペイ』掘り工事は、全區民の滅私的努力に依り竣工したり。

○坑木供出 勝年團勤労奉仕として別所驛迄坑木運搬をなす。

○婦人會總會 四月七日夜決戦下の諸事項につき協議す。

○坑木供出 壮年團勤労奉仕として別所驛迄坑木運搬をなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

人 口 動 態

◎ 婚 姻 之 部

(妻夫) (妻夫) (妻夫)

武藤たか良子三

東川牧江貢

南山田久より

西前山より

和田村へ

西前山より

去をなしたり。

練としてポンプ放水訓練並防火宣傳をな

し、終りて村内行進をなす。

○慰安會 四月十五日部落會副業部主催にて東家小燕の浪花節あり。四月十七日養蠶組合主催にて、別所温泉柏屋別荘に於て婦人慰安會を開催す。

○慰問文 四月十七日山田青少年團にて例會を開き出征兵士へ慰問文發送す。

○坑木供出 壮年團勤労奉仕として別所驛迄坑木運搬をなす。

○婦人會總會 四月七日夜決戦下の諸事項につき協議す。

○坑木供出 壮年團勤労奉仕として別所驛迄坑木運搬をなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

○食糧増産協議會 四月五日村農會及山田農區主催にて食糧増産協議會開催す

○御寄附 金貳拾圓也 竹下英雄殿

○戰勝祈願 山田青年團員一同四月三日官幣大社諏訪神社に參詣大東亞戰爭完遂並に出征兵士の武運長久祈願をなす。

○蟲巢あみ 山田女子青年團にて三月卅日より三日間夜業として報徳會の蟲巢あみをなす。

石澤田

光治

さだ

東前山へ

下水内より

新町へ

武石村より

長瀬村より

柳澤四女與

中塩田村へ

忠治郎

正己

三男

四男

二男

三男

長男

三男

長女

庶子

二男

二女

六女

長男

長女

長男

長女

長男

長女

長男

長女

長男

長女

豊

一郎

玉

忠治郎

一

雄

由

恒

慶

良

正

一

章

能

包

吾

三

長

男

女

庶

子

二

男

女

三

七〇才

七一才

七二才

七三才

七四才

七五才

七六才

七七才

七八才

七九才

八〇才

八一才

八二才

西塩田公報

第九號

長野縣小縣郡西塩田村大字十人三四
編輯人佐藤甚太郎
發行人樋口勇
長野縣上田市新參町五五二三
印刷所中澤活版所

發行所 西塩田村役場

報國債券、貯蓄債券の特別保管
債券類は各自が現物を保管して居ること
は保管管理に特別の注意を拂はなければ
なりませんが、之れが保管を委託して置
けば紛失する様なことも無く又償還、當
來ますので大變便利であります。
初めて保管を委託する者は債券と印鑑を
御提出下さい、第二回目からは債券に保
管通帳を添へて御差し下さい。

報國債券と貯蓄債券の特別保管を無料を
以つて取扱び致します。

六月の常會

六月の常會徹底事項

一、食糧増産國民皆勤ノ件

愈々食糧増産ノ決戰期デス。農村ニ於

ケル全力ヲ擧ゲテ増産ニ敢闘スルト共
ニ中等學校ヤ市街地ヤ工場等カラノ增
産援兵ヲ請入レル爲ニ田植ヤ麥刈ヤ其

ノ他ノ作業ニ就テ共同計畫ヲ樹テマセ
ウ。(部落會又ハ隣組單位ニ)

本村ヘノ增産援兵ハ中學校三十人、女
學校二十人(六月二十三日—六月三十
日迄)市街地ヤ工場カラモ有ルト思ヒ
マス

尙農繁期托兒所モ前年同様六月中旬ヨ
リ開設致シマス。
二、デング熱豫防ニ關スル件

大東亞圈内ノ交通頻繁トナルニ連レテ
外來傳染病ノ内地侵入ノ虞少ナカラザ
ルモノ有リ、特ニデング熱ハ南方諸地
域ヨリ侵入シ多發セルモノト認メラ
、ヲ以テ之ガ豫防ノ方途ヲ講ゼザレバ
國民保健上由々シイ問題トナリマスノ
デ左記ニヨリ格別ノ御協力ヲ願ヒマス
(1) 病原體ハ熱帶綱蚊及ビ一筋綱蚊(

内地ニモ發生ス)ニヨツテ傳播セラ
ル、ヲ以テ媒介蚊ノ發生ヲ極力防止
スルコト。
(2) 必ズ蚊帳ヲ使用スルコト。
(3) 患者及患者ノ疑ヒアルモノヲ發見
届出ルコト。
(4) 發病後ハ五日間蚊張内ニ(晝夜)靜

三、ひま栽培ニ關スル件

ひまノ栽培ニ就テハ曩ニ割當ノ通り必
ズ栽培シテ收穫ヲ確保シテ戴キタイト
思ヒマス。本村ノ割當ハ六石一斗二升
デ前年ノ五倍以上デアリマス、血ノ一
滴ニモ等シイ『ヒマシ油』ノ原料ヲ戰
爭遂行ノ眞心ヲコメテ國へ獻納致シマ
セウ。尙集團栽培ニツイテハ反當九十
五圓以内ノ栽培助成ガアリマス。

四、青壯年登錄實施ニ協力方依頼ノ件

(特ニ部落會長及隣組長サンニ)
時局下勞務動員ノ重要性ニ鑑ミ青壯年
登錄ハ二回(五月末及三月末現在)行

産業組合欄

農業倉庫在庫品の燻蒸

例年の通り倉庫品に對し来る六月末日頃
消毒を實施致します。
食糧は戰時下兵機と同様極めて貴重なる
物資でありますので、たとへ一粒たりとも
も蟲害等にならぬ様完全なる消毒が必要
でありますから差し當りの食用以外は此
の際入庫をして燻蒸を受けられる様希望

現在十四種目の貯金がありますが其の内
比較的利用度の少ない次の種目を整理す
ると同時に時代の要求に即したる新らし
い種目を設定致しました。
従つて廢止となります種目の貯金通帳を
御所有の各位は御序の際通帳と印鑑を御
持參の上振替又は變更を御請求下さい。
○廢止する貯金種目次の通り

御慶貯金は(一部を生産貯金へ振替へ
副業貯金は(一部を生産貯金へ振替へ
○名稱變更する貯金は次の通り

記念福德貯金を生産貯金と名稱變更
○新設したる貯金名稱次の通り

増產貯金 本貯金は生産物の二重價格制
度による生産獎勵金等を主と
して受け入れる貯金として新
設したり。

役場雑報

○簡閱點呼

本年度簡閱點呼は第一國民兵全員に就き實施されるが之が期日は未だ確定を見ないが新聞發表に依れば

八月十九日東塩田國民學校に於て

實施される何れ決定次第令狀送付し豫習教育日割等も通知する故支部報點呼號等

により豫め勉強されん事を希望す。

○書記退職

本村役場書記竹下美代恵氏今回一身上の都合により六月四日限り退職す

○赤十字社員募集

大日本婦人會西塩田支部及軍人分會に委嘱募集中の處左記の通り加入申込ありた

婦人會取扱分

軍人分會取扱分
○縣營林道竣工
本村澤山受託縣有林内林道工事は縣營地元請負にて二月十八日着工五月二十八日竣工せり。工費は九千餘圓

○計
三二三人
八二人
四〇五人

○農人分會取扱分
○縣營林道竣工
本村澤山受託縣有林内林道工事は縣營地元請負にて二月十八日着工五月二十八日竣工せり。工費は九千餘圓

○農人分會取扱分
○縣營林道竣工
本村澤山受託縣有林内林道工事は縣營地元請負にて二月十八日着工五月二十八日竣工せり。工費は九千餘圓

増産の暦

旱害對策に就て

決戦下に於ける農業増産を確保する爲

には旱害を克服して食糧の確保をせねばなりません。その爲には左記の様な事に御協力下さい

○水利の統制

現在貯水池の貯水量によつて水入の計畫を立て最も有効に之を利用せねばなりません。お互大きな立場から自我を捨て國家的な増産に協力を御願ひ致します。その爲に役水、又は一部に犠牲田を設ける様なことを考へて戴く事であります。部落毎に協議會を開いて之が萬全の方法を講じて戴き度いと思つて居ります。

捨て國家的な増産に協力を御願ひ致します。その爲に役水、又は一部に犠牲田を設ける様なことを考へて戴く事であります。部落毎に協議會を開いて之が萬全の方法を講じて戴き度いと思つて居ります。

軍人分會欄

○教育係會

四月二十七日夜役場に於て教育係會を開催、本年度教育實施計畫作成をなす

○分會員貯蓄

二百七十億貯蓄目標達成の一端を擔ひ、

分會員は一人一圓宛毎月貯蓄をなす様通

○常任參事會

五月四日午後二時より上小地方事務所に於て常任參事會開催され小池參事出席、

○信武會郡支部結成式

五月二十日午後一時より上田市に於て標記結成式舉行さる

○未召集兵宿泊訓練

五月二十日夜役場に於て開催され本村より左記會員出席す

○小縣郡聯合分會主催標記講習會は長村菅平縣立青年講習所に於て開催され本村より左記會員出席す

○未召集兵

五月二十日夜役場に於て開催され本村より左記會員出席す

○尙助教として佐々木革一教育係出席す

五月十八日夜役場に於て審議會開催す

○審議會

五月十八日夜役場に於て審議會開催す

○旗掲揚塔立替勤勞奉仕外數件に關し協議す

○審議會

五月十八日夜役場に於て審議會開催す

○審議會

五月十八日夜役場に於て審議會開催す

壯年團

○森林愛護培養勤勞奉仕 本村外二ヶ村翼賛壯年團員三百數十名は五月二日九時野倉山戸屋口に集合國民儀禮を行ひ武田組合長の挨拶を終りて標記の奉仕に終日敢闘せり

○座談會開催 五月六日有力者の『本村の決戰體制確立に關する』意見交換を行ふ座談會を役場に開催す

○第三十八回海軍記念日記念行事左記に

より各種行事を實施せり

○第三十八回海軍記念日記念行事左記に

御寄附

一金二十圓也 軍人分會へ 小宮山源一殿

一金拾圓也 公報部へ 福田 武雄殿

一金二十圓也 軍人分會へ 小宮山源一殿

西鹽田村公報

第十號

發行所 西鹽田村役場

印刷所 中澤活版所

長野縣小縣郡西鹽田村大字十人三四
編輯人佐藤甚太郎
長野縣小縣郡西鹽田村大字手塚一九一
發行人樋口勇

役場雜報

六、海軍志願兵募集ニ關スル件(略)
七、稻熱病ノ防除ニ關スル件(略)
八、配給ニ關スル件(略)

九、堆肥、干草増産ニ關スル件(略)

噫!! 護國の人柱

英魂永へに安かれ!

故陸軍見習士官瀧澤今朝教君は
勇躍大東亞戰爭に從軍せられ、支
那大陸に勇奮敢闘中不幸病魔に打
され 昭和十八年七月三十一日

一、孟蘭盆行事ヲ簡素化シマセウ
御盆行事ハ簡素ニシテシク祖靈ヲ祀ル
オ盆休ミハ成可止メテ増産ニ勵ム「
オ供物ヲ川ヘ流ス習慣ハ止メル」
中元贈答ノ絕對廢止

右ニヨリ節約シタルモノヲ分ニ應ジテ
貯蓄スルコト。(各戸ナル可ク二圓以
上)

二、夏季鍛錬ノ勵行

決戦ノ夏、暑熱ヲ道場トシテ強健全

ナ心身ヲ作ルコト

○壯丁ノ皆冰訓練

○増産勤勞ニヨル心身ノ鍛錬

○隣組單位ニヨルラジオ體操

○各常會開始前ノラジオ體操

三、勤勞報國隊ノ結成

國民皆勤ニヨリ戰力增强ノ實ヲ舉グル

爲西鹽田村勤勞報國隊ヲ結成スル

國民學校卒業年齢ヨリ(満十四才)男
子ハ五十才未滿、女子ハ二十五才未滿

ノ未婚者ハ夫レド入隊スルコト

○地方長官ノ需給計畫ニ應ジテ出動ス
勤勞報國隊ハ

○本村ノ今月ノ割當二千八百十圓

ル、○空襲又ハ水火災ニ際シ必要アル

トキハ關係官廳ノ要請ニ遵ヒ出動スル

○右ノ外必要ナル作業ニ隨時出動スル

四、廢電球、廢真空管ノ回收
電球又ハ眞空管ハ今後廢電球、廢真空
管ト引換フルニ非レバ販賣セラレザル
ニ付留意セラレ度シ

御寄附

一金五百圓也 西前山 佐藤 雅山殿

内課 金二百圓 村学校基本財產中へ

金一百圓 続後奉公會中へ

金貳拾圓宛 勝年會(軍人分會)

村厚生協會(婦人分會)

手塚 育英資金中へ

一金貳拾圓 村基本財產へ

金拾圓 婦人會へ

一金貳拾圓 小宮山源一殿

田中 榮喜殿

五、國債貯金制度ニ就テ

本年六月三日付國債貯金規則ガ公布セ
ラレ本貯金ヲスルコトニヨリテ國債消

化ト同様ノ取扱ヲスルコトニナツタ

○貯金額ハ一圓以上七千圓以下

○指定國債購入ノ場合及利子拂出シ以
外ニ拂出ヲスルコトガ出來ナイ

○年二回利子ノ計算ヲ行フ

○本村ノ今年ノ割當二千八百十圓

○吏員就職 左記の諸氏夫々就職せり
六月廿一日 瀧澤次子(稅務配給)
六月廿五日 倉澤大八郎(農會事務)
○月○日 小林功技手(○○解除)
トキハ關係官廳ノ要請ニ遵ヒ出動スル

○慰問撮影 銃後奉公會では七月十一日

午前、興亞寫眞報國聯盟上小支部の篤

志家十一名の奉仕を得て全村家族の日

常生活風景を撮影せり。因に同寫眞は

前線の勇士に一枚家族に一枚交付され

る。尙當日の案内は女青役員の奉仕。

○遺族慰問 八月十四日銃後奉公會役員

にて戦歿者遺族の孟蘭盆慰問をなす。

○雛鷦鷯座談會 八月五日午後國民學校に

て青年學生、高等科男子は海軍飛

行豫科練習生青木村出身上原君、別所

村出身荻原君を招き雛鷯の學校生活を

中心とせる座談を聞き海軍志願の決意

をかためたり。

○常務委員會 八月九日午後大政翼賛會

役員會を開催、緊急食糧增産、勤勞報

國隊結成、配給諸問題等に關し熟議す

○年二回利子ノ計算ヲ行フ

○本村ノ今年ノ割當二千八百十圓

○本村ノ今年ノ割當二千八百十圓

○本村ノ今年ノ割當二千八百十圓

○本村ノ今年ノ割當二千八百十圓

○本村ノ今年ノ割當二千八百十圓

軍人援護婦人相談委員

小池 鶴原かめの育

兒玉 多賀子

吉野 和美

荒井 安子

竹内 通世

農會欄

九月の増産暦

一、病害防除

不良氣象を誘因とする稻熱病の発生は全面的にして之が防除の良否は食糧増産の上に至大の影響あるにより左記事項の必行せらるゝ様注意せられ度し

(1) 穂揃期に於けるボルドー液撒布

(八斗式過石灰ボルドー液反當八斗撒布のこと)

(2) 落水期の延期

發病せる水田の落水は九月下旬迄延

二、自給肥料増産

本年度秋肥の配給よりして自給肥料の増産なくしては之が増産は困難です

左記により之が増産に協力せられ度し

イ、堆肥廐肥の増産

九月末迄には必ず土堤、山野雜草を集めて堆肥料増産に協力願ひます

縣も此の期間を以つて草刈週間として居ります。是非之の期間草刈實施をして堆肥及廐肥の増産に努めませう

殊に無畜農家の協力を願ひ度いと思ひます

目標

麥 三〇〇貫(反當)

桑 一〇〇貫(ヶ)

其他

堆肥一〇〇貫は生草二〇〇貫に換算
ロ、木灰の蒐集

本年度稻作に於ける未曾有の稻熱病の発生は不良氣象によるものありと雖も加里肥料の不足による部面もありと思はれます

御互に加里肥料資源たる木灰の蒐集に協力を願ひます

先づ毎朝主婦は焚火前必ず籠の灰を集め様に注意しませう

目標

麥に付

一五貫(反當)

ハ、綠肥栽培の増殖

空氣中の遊離窒素を利用する綠肥作物

の増殖は自給肥料増産の一面向です

一毛田の利用、桑園間作等による左記目標の増産を願ひます

紫雲英 (水田裏作) 一二丁

紫雲英 (ヘアリペッチ) (桑園間作) 七〇丁

紫雲英種子等の斡旋をなす

播種期
上田 跳豆 九月上、中旬 反當 三升

桑園綠肥 九月下旬迄には播種を終了

三、有害鳥獸防除

増産の敵 鶴、鳥其の他の防除に付き

ては例年威銃等により之が防除をなす

も本年は資材關係により之が實施は困難に付他の方法により之が對策をなさ

れ防除の完璧に協力せられ度し

カーバイトによる威銃代用等

四、甘諸の管理及貯藏

本年度食糧増産の大きな使命を以つ甘諸の増産は植付後の生育略々順調にして計畫の完遂も可能なる状況たれば諸の肥大は九月に於て最も大なれば『サグリ諸』等による甘諸根の復害等をなさず、止むを得ず食用に供する場合は一株全部掘取をなさること

九月の納稅

國稅	所 得 稅	第二期
農會	地 租 判	

◎夏の衛生

消化器系傳染病
豫防について

當地に於ける消化器傳染病益々蔓延の徵あり總力戰下定に寒心に不堪速に是が豫防として左記の事項を實行下さるやうお願いいたします

一、少しでも具合の悪い時はすぐ醫師の診斷をうけること

一、ナマものに氣を付けること
果物にきをつけること

一、お天氣の日は寝具は日光でほすこと

皇國農民手帳の
實施について!!

西 塩 田 村 役 場

今まで役場や農會、養蠶業組合等から局に於ても隨分時間と労力を重複消費し等色々な方面から種々な調査が相次いで行はれ調査員や一般農家は勿論、關係當局が今度實施になりました皇國農民手帳の制度は、かうした重複を避け調査を一本建てして判斷に迷ふと云ふ状況でありましたが今度實施により相矛盾する調査結果の出ないやうにすることを目的と致して居ります。

耕地の面積等は土地臺帳を基礎として記入し實際と著しき相違のあるものは適當なる時期に實地の調査を行ふこととして此の際一應農業全般に亘る確乎たる數字を握り決戦下の増産計畫、生産資材の配給、生産物の供出等に遺算なきを期して譯であります。各農家に於いても耕地に異動(賣買交換小作地返還等)のある都度部落會調査部長へ必ず届出で下され役場調査員と共に誤ない調査を遂げるやう御協力をお願ひ致します。なほ作物の作付や收穫の完了の都度調査員が巡回して調査致します故ありのまゝの正しい申告をして頂きます。

部落通信

十一

○勤労奉仕 五日出征軍人家族の麥刈、田植、田起等
年團合同にて曉天四時より食前作業一時
間平行ひ戰時下勞働強化で増產に敢鬪す
○男女青年團 八月十日四時曉天動員を行ふ
行ひ河原敷を開墾し蕎麥蒔付を行ふ
○大麻 度々の降雨に恵まれ順調に成育
し刈取り乾燥中にて近く皮剥を行ふ
○稻作 植付當時憂慮せし稻作も其の後
度々の夕立にて順調に成育し、稻熱病も
懸命の防除で終息し既に出穂最中
○養蠶 夏蠶も半年作で終了し、桑の繁
茂により繭増産に馬力を出し秋蠶は八月
十六日、二十五日掃立を行ふ

東 前 山

○祇園祭 七月十五日塩野神社では恒例
祇園祭執行

○男女青少年團では急迫せる食糧事情に
奮起、三百餘坪の畑を借り受け代用食糧
のソバを播く、時八月十一日の鐵をも溶
す炎天下で統制ある然も秩序ある作業で
終始した

手 塚

○八月十四日 手塚區は出征家族の慰問をする

○女子青年團 七月十五日出征兵士に慰問状發送す

○八月九日 男女青年團は荒廢地六百坪開墾しそばの蒔付けをなす

山 田

○祇園祭 七月十五日山田神社祇園祭執行、當日青年團にて祭典用古獅子、古面御輿、大幕、笛、太鼓等の蟲干をなしたり

○戰勝祈願 每月八日曉天村民一同山田神社に參集、戰勝祈願をなす

○總集會 旱魃時の灌漑用水問題につき武田村長の參列を得總集會を開催す

野 倉

○八月六日 野倉男女青年團では時局柄食糧増産のため明け切らぬ曉に起床字柴宮地積を開墾蕎麥の蒔付をなしたり

人 口 動 態

○工藤喜一郎 岩村田町へ
日向フサノ 手塚より

○夫 竹花袋婆秋 富士山村へ
妻 瀧澤千秋 野倉より

○夫 黒坂とみ子 東前山より
妻 池上三郎 長野市へ

○佐藤丑太 上田市より
妻 中村なを 上田市より

◎婚姻ノ部

人口動態

○戦勝祈願 每月八日曉天村民一同山田
神社に參集、戰勝祈願をなす

○總集會 旱魃時の灌漑用水問題につき
武田村長の參列を得總集會を開催す

野 倉

○開田作業　區民一同の勤労奉仕にて大池内に一町歩開田をなす七名にて耕作發育良好なり

○八月十四日　手塚區は出征家族の慰問をする

○女子青年團　七月十五日出征兵士に慰問狀發送す

○八月九日　男女青年團は荒廢地六百坪を開墾しそばの蒔付けをなす

山　田

全野十東前全全手全塚東前山田
倉人山

千野池田佐藤鶴原齋藤曲尾中澤勅使ヶ原勝
徳義文雄照子康子保子浩博恭

貞義男長女晴平七德幸登市三男
四男五男二女長女二女長男六男四男
四男

◇出生ノ部

西塩田公報

第十一號

長野縣小縣郡西塩田村大字十人三四
編輯人佐藤甚太郎
長野縣小縣郡西塩田村大字手塚一九一
印 刷 所 中澤活版所
長野縣上田市新參町五二二
發 行 人 樋口勇

發行所 西塩田村役場

農會欄

一、麥の増産に就て

決死的な戦闘が繰り返されて居る南西太平洋方面の現状に鑑み食糧の國內自給は絶對的なものとなつて居ります。

外米の輸入及臺灣米、朝鮮米の移入するその輸送に船を必要とし、從つて軍の作戦の變更さへ餘儀なくさるゝ状態なりかゝることは現在の戦局から見て決して私達農村民として銃後食糧の兵站基地を任ずる者の許されざることであります。従つて私達はどんな苦痛も又資材不足も頑張り抜かねばならぬ責任があります。

かかる意味で本年度の播付をする麥の作付は絶對確保をせねばなりません。勿論割當の面積は決して生やさしい數字ではありません。

然しその面積を確保して絶對的な増産を行はねばならないのです。勿論肥料も少い、労力も足らん、資材もない、それは解りすぎる程判然して居る事實です。けれどもその中に増産をせねばならぬ程の戦局であります。

大東亞戦を勝ち抜く爲にとどんな苦痛も御互に忍んで行きませう。
かかる意味から本年度麥作には次の事項を御互に實行致しませう。

實行事項

一、播付は十月末迄には必ず播付を完了しませう。

二、配給の肥料は基肥として必ず施用しませう。

三、堆肥は三〇〇貫(反當)を使用して覆土をしませう。

四、木灰は發芽後一寸程に麥が伸長した時に施用しませう。

五、播巾は成るべく廣く畦巾の三割を目指とすること

六、十二月中に必ず一回麥踏みを行ひませう

七、排水溝は充分に造りませう

八、播種量は左の標準によりませう

小麥 伊×オ 反當四升

全二七號 反當三升六合

大麥 反當五升

一、架干^{ハギ}しは十五日以上として脱穀後は

一日一二日の延干を勧行すること

前號所載故陸軍兵長齋藤二郎君は、故陸軍伍長齋藤二郎君の誤植につき謹て訂正致します。

訂

正

二、糲の調製 乾燥に就て

戰局の進展に伴ひ種々な生産は戰力増強に重點的な配給を行はねばならぬことは言ふ迄もありません。

そんな意味から糲摺用の燃料及潤滑油も漸次窮屈になつて参ります。従つて糲摺の移動計畫も今までの様に自由なことは許されなくなつて参りますので農會でも之が移動調整に就ては農會長さんと御相談の上之が計畫を樹立し地域的に移動糲摺を願はねばならぬと思ひます。

右の實狀を御了解を願つて此の運營に御協力を願ひます。而又作業能率の増進及び資材の磨滅を減少する爲には糲の乾燥調製に特別な注意を願ひ度いと思ひます。

農林省では大體石油一罐は玄米二二〇俵位を調製する豫定の下に燃料の配給をして居るとの事でありますので、ゴムロールの節約にも燃料の節約にも作業能率の増進にも糲の乾燥調製が第一です。記事項を勧行して下さい。

姪婦届並に出産申告書に就て

二、普通地干は延干を四日位を勧行すること
三、脱穀前の調製は有芒種は脱芒し後筛选し二回を勧行すること
無芒種にありては筛选しを二回行ふこと

昭和十七年七月より姪婦の保健指導と保健のため姪産婦手帳が出来ましたからどうか次の事項はお忘れなく御届下さい。

一、妊娠三、四ヶ月頃迄には姪婦の保健指導と保健のため姪産婦手帳が出来ましたからどうか次の事項はお忘れなく御届下さい。

一、妊娠三、四ヶ月頃迄には姪婦の保健指導と保健のため姪産婦手帳が出来ましたからどうか次の事項はお忘れなく御届下さい。

一、出産申告書は手帳の五頁にありますから十四日以内にお忘れなく届下さい。

一、届によつて姪産婦手帳が交付されました。

一、届によつて姪産婦手帳が交付されました。

一、届によつて姪産婦手帳が交付されました。

一、届によつて姪産婦手帳が交付されました。

國民學校欄

- 教學講習會 八月二日より三日間長野
師範學校に開講、田中校長、佐藤、水澤、小林の三訓導受講す
 - 理科講習會 八月十九日、二十日の兩日中塩田校に開催、職員出席す
 - 建築彫刻講習會 八月十八日別所村安樂寺八角四重塔及國寶佛像二軀並常樂寺重要美術品多寶塔、塩田國時像につき講習會あり、職員出席す
 - 裸體調練 八月二十四日より男生徒及初五以下の女生徒の裸體訓練を行ふ
 - 兒童榮養給食炊事場建築工事設備 八月二十八日完了す
 - 直江津修學旅行 八月三十日初等科六年生徒は水澤、山田、小林三訓導に引率せられ春日山、五智國分寺、直江津海岸に修學旅行をなす
 - 相撲土俵 劍道用擊突棒の設備完了
 - 忠靈室 明治初年より戰時事變の爲護國の華と散られる勇士の寫眞を掲げ忠魂を弔ふ一室を設けたり
 - 講演會 九月十二日教育會館に於て帝大教授富塚先生の科學教育に就いて講演あり、職員出席す
 - 拔齒 九月十四日より林齒科醫來校、兒童の拔齒を實施す
 - 鍛練旅行 九月十六日高等科一學年生は館林、今井、金澤の三訓導引率にて諫訪、松本方面鍛練旅行をなす
 - 小縣上田教育部會 九月十九日上田市

產業組合欄

胡桃の集荷に就いて

正味八貫匁入れ 玄米空俵入とし
横繩五ヶ所二重掛

◎鬼、姫胡桃
正味十貫入れ 玄米空俵入とし
横繩五ヶ所二重掛

胡蘿
桃子
等外
全
上上
特等八貫入一俵
一二九、三六
二二八、五六六

鬼胡桃
十貫匁入一俵
姫胡桃
十貫匁入一俵

何れも乾燥は充分に行ふこと
集荷受入日は追而發表

前年通り集荷を致します
價格等は直接御聞き下さい

御寄附

金拾圓也 人報費人 井澤修意殿